
考える学習シリーズ 中学英語

Speedy & Simple

『スラスラ流』

長文読解法

入門編

考える学習をすすめる会
石田和彦 著

は・じ・め・に

長文読解の問題。こう聞いただけで「やだな～」って感じる人は多いと思います。けれども、**中3生諸君は、長文読解を避けて通るわけにはいきません**。理由は簡単。**総合テストや高校入試で非常に多く出題される**からです。

次の問題は、テストや入試に出される、長文読解問題のミニチュア版のようなものです。^{ため}試しに、やってみましょうか。(見た瞬間、「やりたくねー」と思った人は飛ばしていただいてもかまいません。**この本を読み終わるころには、必ず、「よし、やってみよう」と思っているはずですから...**)

次の英文を読んで、後の問いに答えなさい。

(高知県・改)

Kenji, Yoshio, and Goro are good at English. They have their ways of learning. Kenji often listens to English songs and tries to remember all the words. Yoshio reads one English book every week. Goro enjoys talking with his American friends in the English club. They are not learning English in the same way.

(注) are good at ～ ～が得意である

(1) 健司(Kenji)君の英語の学習方法について具体的に述べた1文を、本文中から抜き出して書きなさい。

(2) 本文の内容について、次の問いに英語で答えなさい。

What does Yoshio often do to learn English?

(3) 本文の内容に合っているものを、次のア～エから1つ選びなさい。

- ア. We should learn English in the same way.
- イ. Yoshio enjoys talking with his American friends.
- ウ. There are different ways of learning English.
- エ. Reading English books is as easy as listening to English songs.

実は、これ、長文読解問題としてはとても易^{やさ}しいものです。私なら、3分もあれば、楽勝で解いてしまいます。私が「先生」だからではありません。**英文の正しい読み方を知っているからです。**みなさんも、これを身に付ければ、私よりも速く解けてしまう人だって、現れるかもしれません。

長文読解をテーマとした問題集・参考書はたくさんありますが、「英文の読み方」そのものについて書かれているものは、ほとんどありません。私たち、「考える学習をすすめる会」では、ズバリ、**一般にはほとんど知られていない、英文の正しい読み方**を、諸君に紹介します。みなさんに、それまでとは比較にならないくらい、**速く、そして簡単に、長文を読み取れるようになってもらいたいから**です。

本書は、「英語を自然な日本語に直すのは当たり前だ」と思っていた人が**意識改革**するための「**入門編**」です。以降、「**なぜ？からわかる英語入門 初級版**」、「**同 中級版**」（いずれも城内貴夫著）、そして「**上級英語ゼミ**」（石田和彦著）へとステップアップしてみてください。それによって、正しい英文の読み方をマスターした諸君は、**中3の総合テストや高校入試の英語長文読解において、飛躍的な進歩を遂げること**を確信しております。

1 . 長文を読んでみたら・・・

まずは、前回の学校の英語のテスト用紙を用意してください(丸めて捨てちゃったという人は前々回のを)。その中の長文読解の問題に注目してみよう。諸君に点検してもらいたいのは、次の3項目。A・・・はい、B・・・どちらともいえない、C・・・いいえを、○で囲んでください。

- ア．内容は読み取れたか(話の内容をある程度説明できるか)。 A B C
イ．時間は足りたか(とりあえず、時間内に全問解き切れたか)。 A B C
ウ．長文読解の問題だけの正解率が50%以上か。 A B C

どの中学でも、テストの最後の2題くらいは、長文読解のはず。「次の英文を読んで、後の問いに答えなさい」ってなもんで、長～い英文を読まにゃいかん。しかも、1、2年のテストだったら、英語の教科書の本文が題材に使われるケースが多いが、**中3のテストや高校入試では、諸君が見たこともない文章ばかり**。初めて見る英文を、時間内に読み取り、内容を理解し、問題を解く・・・。これは相当つらい。だから、上の3項目ともCに○が付いていたとしても、しょぼくれる必要はない。かといって、このまま放っておくわけにもいかん。なんとかしなきゃ・・・。

結局さあ、長文読解の問題、好きな人いる？ あまりいな・・・、ちょっと待ってね。電話がいっぱいかかってきた。・・・フムフム、な～るほど、**長文読解は苦手という人ばかりだ**。代表的な声を集めてみると、

A君　：時間が足りなくて、最後までできなかったよ。

Bさん：ってゆーかー、なんとなく読んでみたけどー、よくわかんない。

C君　：俺、こういうの読むの嫌いなんだよね。

Dさん：意味がわからない単語ばかりで・・・。

ありゃ～。^{ひきん}悲惨ですな。原因はさまざまらしいけど。そこで、全員に同じ質問をしてみた。「**文の意味，どうやって考えた？**」

答えはみな同じ。「**頭の中でちゃんとした日本語に直そうとした**」

やっぱりね。みんなそれが当たり前のことだと思っているだろうから、無理もないが。けどさ、これじゃあ、**何をやっても無駄だよ**。常識を捨てなきゃ。その点については後ほどじっくりと論じるとして…，

Bさん。何事も「なんとなく」乗り切れればだれも苦勞しないよ。だから、ちょっとだけがんばってみようよ。

C君!! 読むのが嫌いだとか言ってるけど、高校入試の英語は、**問題の大半が長文読解**なんだぜ。**中3のテスト**だってそうだよ。どうする？ 嫌だなんて言わないで、マア、読んでみようよ。おもしろい文章やためになる文章だって、^{けつこう}結構あるんだから。

それから、Dさん。**単語力の不足は深刻な問題だ!!** かなりヤバイ。今回はこの点についてあまり触れることができないので、これだけ言っておきます。「後ほど紹介するやり方で英文を読んでいけば、それを習慣づければ、単語力は自然に向上します」と。

2. 従来の常識

それでは、従来の常識，すなわち，英文を自然な日本語に直すということについて、徹底検証^{てっていけんしょう}してみよう。ここに、長野県の入試で実際に出題された長文読解の問題文から抜き出したしたものがある。おや、A君。来てくれたんだ（ホントかよ?）。ちょうどいい、君にこの英文を読んでもらおう。ただし、思考文章変換装置（頭の中で考えたことを，文章にして打ち出す機械。実在しません）を装着していただく。では、始めよう。諸君もA君になったつもりで、いっしょにやってみて。ただし、枠^{わく}内の文から下は、紙で隠^{かく}し、自分なりのやり方で。

Sometimes we can make new friends when we learn something.

[A君の頭の中] (以下，9行は役に立つ部分は少ないし，読むの面倒なので飛ばしてかまいません)

sometimes は「ときどき」，**we** 「私たちは」，え〜と，**make new friends** だから、「新しい友達をつくる」。その前に **can** があるから「～することができる」だな。ここまでの、「ときどき，私たちは新しい友達をつくることができる」。あれっ，まだ続^ついてるぞ。**when** は「いつ」なのか「～するとき」なのか…。あっ，**when** のあとが疑問文になってないから，「～するとき」のほうだ。**when we learn something** で「私たちが何かを学ぶとき」だな。これ，前へ持って行ったほうがよさそう。できた。「私たちが何かを学ぶとき，ときどき，私たちは新しい友達をつくることができる」。ちょっと不自然。「ときどき」より「ときには」のほうがいいな。できるの後に「ことがある」を補^おおう。

書くと長くなるが，この間，装置のタイマーの記録では **31** 秒しか経^たっていません(本当は **31** 秒も経^たっていますとりたいのだが)。

なお、長い文章から1文だけを抜き出したため、この文1つだけでは具体性に^{とび}乏しいという点はお許しを。それはさておき、A君は、
Sometimes we can make new friends when we learn something. を、
「私たちが何かを学ぶとき、ときには、新しい友達をつくることができることがある。」

と訳した。本人は大満足。うまくできたと思っている。「英語を日本語に直すときは、こんなふうを考えるんだ」などと感心している場合ではない。

ダメだよ，こんなことしちゃ!!

君たちは^{ほんやくか}翻訳家になりたいの？ 今、英語の勉強をしているんだぜ!! 英語を自然な日本語に直すっていうことは、**英語を殺している**ってことなんだ。
主役を殺して、^{かげおしや}影武者が生き残る。これでいいのか、君たちは？

総合テストや高校入試を想定した際、**英語を自然な日本語に直すという従来のやり方には、^{ちめい}致命的ともいえる欠点がある。**

時間がかかりすぎる!!

A君は、この文を和訳するのに、31秒かかった。彼は、単語の知識も文法の知識もしっかりしており、考える力もある。それでも、たった1つの文に31秒もの時間を費やしてしまう。この例文は、対話文から抜き出したものだが、本体の対話文は、この約**20倍の分量がある**。単純計算すると、読み終わるのに、 $31 \times 20 = 620$ 秒、10分ちよっとかかる。入試は1科目50分。ペース配分を検討すると、この対話文読解に使える時間は長くても15分。**5分足らずで問題を(8問)解かねばならぬ**。これらの数値は、あくまでシミュレーションであり、目安にすぎない。それにしても、だいじょーぶか～？

3 . 新しい常識

英文を自然な日本語に訳すという方法がいかに無意味なものであるのか、おわかりいただけたでしょうか。「まだ納得できない」、「じゃあ、どうしろって言うんだ？」って？ お待たせしました。私たちが提案する、画期的な方法、

その名も **スラスラ^{りゅう}流** の登場です!!

「なんじゃ、そりゃ？」って？ 見ての通り。**英文をスラスラと訳せるようになる**から、こんな名前が付いたわけ(考える学習をすすめる会の柳沢達城氏による命名)。「スラスラ」には、**Speedy**「速く」、**Simple**「単純な、簡単な」という意味も込められているので、**SS流**と略してもいいことにしよう。

スラスラ流(SS流)の訳し方とは、一言で言うと、**英文を、単語の意味だけで、文の頭から理解していく**というものである。もちろん、これだけではサッパリわからないだろうから、初めての人でもすんなりと納得してもらえるよう、順を追って説明していこう。

単語の意味だけって？

3 ページで登場してもらったA君も、英文を日本語に訳すとき、単語1つ1つの意味は考えている。英文を自然な日本語に直すときもスラスラ流で訳すときも、**単語の意味をベースにしている**という点に変わりはないのだ。ただし、スラスラ流ではそこでおしまい。

文の頭から理解していくって？

英文を、英文としての語順そのままに理解していく。日本語の順番には直さない。どういうことかっていうと、I have a book in my hand. を「私は本を手を持っています」とはせず、

I have a book in my hand.
私は 持っている 1つの 本を ~の中に 私の 手。

で済ませてしまおうというわけ。これだけで文の内容はわかるでしょ？

何なら、「私は_ネ 持っている_ヨ 1つの 本を (場所は) ~の中に_{ダヨ} 私の 手」
ってすれば、意外とスムーズ。

実際には、もっと長い文、ややこしい文はいくらでもあるが、慣れれば、こんな感じで読み進められるようになるから、心配無用。

本当は、スラスラ流に関して知ってもらいたいことがたくさんあるんだ。けど、一度に全部やると爆発するから、まずは「型」を紹介しただけね。何事に関してもそうだけど、1つのことをマスターするには、まず「型」を覚えなければならない。

ところで、A君には双子の弟^{ふたご} A'君がいるんだ(ウソっぽいな~)。彼にも来てもらったんで、A君と同じ装置を着け、同じ英文を読んでもらうことにした。ただし、A'君はA君と全く同じ英語力の持ち主で、かつ、スラスラ訳の「型」を一通り説明してある。

Sometimes we can make new friends when we learn something.

[A'君の頭の中]

ときどき / 私たちは / することができる / つくる / 新しい / 友達を // ~するとき (when についての思考はA君と同じ) / 私たちが / 学ぶ / 何かあるものを … おしまい。

ええー!! これだけ!? かかった時間は**たったの10秒**。A君の**3分の1**だよ。どーなってんの? 実は、単語の意味だけを考えている時間は、2人とも全く同じだった。**語順を日本語に合わせて再構築^{こうちく}したり**、よせばいいのに、**より自然な日本語に加工したり**した分、A君のほうが、**圧倒的に時間がかかって**

しまったのだ。

実際に、こんなにうまくいくとは限らないから、スラスラ流で文章全体を読むのに、A君の3分の1ではなく、半分の5分かかったとしよう(そうすると、A君のデータも修正する必要があるのだが)。いや、もっとオマケだ。7分にしよう。すると、8問の問題を8分かけて解ける!! ちなみに、英語の問題を1問1分で解くということは、55秒考えて、5秒で答えを書くということ。**余裕だね。**さらに言うと、**長文読解の問題は、本文の内容さえ理解してしまえば、解ける問題ばかり**なのだ。もちろん、個々の英文が理解できることと、文章全体が理解できることとは別物なんだけど。

… 英文を自然な日本語に直す今までのやり方には、**日本語としての意味がわかりやすいというメリット**しかない。日本語訳だけを見れば、スラスラ流のほうがわかりにくい。けれども、欠点はこの一つだけ。よい点を数え上げたらキリがない。

1. **英文の意味を理解するのにかかる時間が圧倒的に少なくてすむ。**(それによって精神的にも余裕がもてる)
2. **長～い英文が出てきても平気。**(つねに英文の頭からみていくから、後ろから前へ戻って訳す必要がない)
3. **文法の知識がほとんどいらない。**(文法は基本だけで十分。単語の意味だけで理解できる英文って意外に多いんだよ)

他にもたくさんあるのだが、行数の関係でここまでにします。ここで、じっくり考えてください。**自然な日本語訳とスラスラ流のとどちらがより効果的であるのかを…。**

4 . ようこそ , スラスラ流へ

後で聞いて驚いたのだが、帰宅後、A君とA'君は兄弟げんかをしたそうだ。

以下、そのときの2人の会話。

A'君 : 兄ちゃん、英語の教科書の本文をスラスラ流で予習してみたけど、
かなりいけそうだけ。

A君 : そうかな。スラスラ流の日本語には、かなり無理がある。イマイチな
じめない。オレ、こんなのやだね。

A'君 : なんだと!!

A君 : やるか?

このあと、壮絶なバトルが…。

ゴメンネ、A君。キミには(A'君にも)、スラスラ流の「型」しか説明して
いなかった。もっと根本的こんぽんなところまで掘り下げなくては…。

スラスラ流の日本語に無理があるのは、**英語と日本語とでは、語順がまる
で違うから**だ。英語の語順を日本語に合わせてしまうのが従来の自然な和訳、
英語を英語の語順のまま理解するのがスラスラ流なのだ。両者のスタンスは
180°違う。受け入れがたいのも無理はない。

今回は、【入門編】ということで、**英語の語順**について徹底解明してみよ
う。「英語と日本語は語順が違うんだからしょうがない」と言ってしまうえば、
それまでだが、じゃあ、諸君は、英語流、日本語流、どっちかを無条件で受
け入れるの？ **なぜそうなるのかわからないまま、やり方だけを身に付けて、
それが本当の学問と言えるかい？** 数学で、速さが何なのかよくわからない
けど、速さの問題は解ける、こんなの学問でもなんでもないよ。少なくとも、
考える学習では、絶対はない!! …スマン。感情的になってしまった。こ
れから、実際の英文にふれながら、英語の語順について考えてみましょう。

(注) 以下，例文及び，練習問題で用いる英文については，

1. (長野県)とあるものは，長野県高校入試問題から抜き出したもの。
2. 2語以上に下線がついているものは，その部分をひとまとまりとして意味をとらえたほうがわかりやすいと思われるもの。
3. 練習問題をやる時，意味のわからない単語があったら，必ず辞書で調べましょう。スラスラ流の命は「単語の意味」ですから，単語力の不足は致命的です。
4. 練習問題は，英文をノートに書き写してから，それぞれの単語の下に意味をかいていきましょう。何回も繰り返してやってみることをお勧めします。

Step 1 語順の話

(英語流の日本語に慣れよう)

次の英文とそのスラスラ訳を読んで，文全体の意味を感じ取ってください。

(①～⑤は9～12ページの説明の番号に対応しています)。

ア. Your father is very busy.

あなたの お父さんは です とても 忙しい。
① ② ③

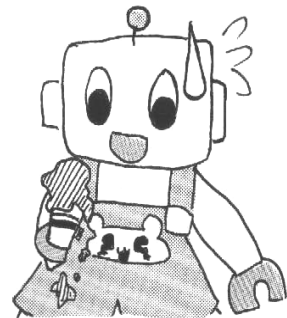
イ. I played tennis in the park yesterday.

私は した テニスを ~の中で その 公園 きのう。
① ② ③ ↳ ④ ← ⑤

なぜ，英語はこのような語順で並んでいるのか。ある情報を人に伝えるとき，**英語は，聞き手に対する配慮を最優先するから**である。つまり，**聞き手が知りたい順番に，単語が並んでいるのだ。**

右の絵を見てくれ。この絵から得られる情報を誰かに伝えるとしよう。

① 最初に知らせなければならないことは，



^{だれ}誰(何)のことを言っているのかという

こと。英語では、最初に「～は、～が」

(「**主語**」という)を持ってくることで、誰のことを言っているのかはつきりさせるんだ。この絵の話をしようにも、こいつの名前が分からないと話にならないでしょ。

日本語だと主語を言わないケースが多いから、その点でも英語と違うよね。

ちなみに、この絵のキャラは、ろぼお君っていうんだって。**主語にあたる英単語には、その意味のあとに、必ず、「～は」をつけておこう。**

② 次に、**主語のようすを説明する**。そいつがどうしているのか、何(どう)なのかを。日本語でいう「述語」だね。日本語の述語は、動詞・形容詞・形容動詞で分担するが、**英語は、動詞がその役割を一手に引き受ける**。それが **be 動詞**(is, am, are など。意味は「～です」「いる・ある」)と

一般動詞(be 動詞以外のすべての動詞。「～する」という意味)。

日本語の述語は文の終わりにくるが、英語の動詞は主語のすぐあと。**そいつがどうなのかを次に早く知らせたいから、こうなるわけだ。**

例えば、君たちが何かのオーディションを受けたとしよう。一番知りたいのは「結果」だよ。発表のとき「あなたは本オーディションにおいて…」とか長々と言われても、イライラするだけだよ。

一言「合格しました」なら、聞きたかったことが一発で伝わるでしょ。

よく、英文の骨格は、**主語 + 動詞** であると言われるけど、実は、こんな理由があったわけ。

イラストでは、「ろぼお君は、食べようとしている」んだよ。

- ③ ここまでで、～は、～する（～です）と伝えた。これで言いたいことの大部分が伝わる場合と、そうでない場合とがある。

・ be 動詞の場合、主語と be 動詞だけでは、文が成立しない。He is だけでは「彼は です」。これでは何のことかさっぱりわからない。**あとに何か入れて、意味を補ってやらないと。** be 動詞を使った文では、そのあとに**名詞**(モノの名前を表す言葉)、または、**形容詞**(「～い」で言い切りになり、モノのようすや状態を表す言葉)を入れて、意味を補うんだ。

be動詞の場合 …… 主語 + be動詞 + 名詞 または 形容詞

・ 一般動詞の場合、主語と一般動詞だけでほぼOKな場合と、動詞のあとに「～を」「～に」が必要な場合とがある。

一般動詞の場合 …… 「～を・～に」が必要な動詞とまらない動詞とがある。

上の枠内の下線部にあたるモノが動詞の後にくるわけだ。イラストでは、「ろぼお君は」「食べようとしている」の後に「ソフトクリームを」とくる。日本語とは決定的に違うね。

※ 意味の不完全さを補うもの（**補語**という）と、「～を・～に」にあたるもの（**目的語**という）とは、全く別の物だが、ここでは「動詞のあとにくる」という共通点を重視した。

補語、目的語に関しては、城内貴夫氏の「**なぜ？からわかる英語入門 初級版**」の「**五文型**」に、バッチリ収録されています。ぜひ読んでみてくださいね。

④ 「場所」を表すものは後回し。たとえば、「私は、食べたよ、ラーメンを」で、言いたいことの大部分は伝わったと考える。どこでラーメン食ったっていいじゃん。

⑤ 「時」を表すものはさらに後回し。なぜかという、文中の**動詞を見れば、必要最小限のことが伝わるから**。動詞が現在形なら現在のことを、過去形なら過去(今よりも前)のことを言っているって、とりあえず、わかるでしょ。(時を表す語句が、文の最初にくることもあります。)

以上が、ごく一般的な英文の組み立てである。結局、9ページの絵は、ろぼお君は_ネ 食べようとしている_ヨ ソフトクリームを。
となる。これが**英語流の日本語**ってわけだ。

なお、「①主語、②動詞、③主語のあとに必要なもの」の3つは、**文を組み立てる上でなくてはならないもの**。それに対して、④場所、⑤時は、なくても文は成り立つ。これらは**飾り物**、マア、オマケのようなものだと思って。

[練習1] 次の英文をスラスラ流に訳してみよう。(解答・解説は次のページ)

1. She is an English teacher.

2. The water was so blue and very beautiful.

(長野県)

3. I go to school with Ken.

4. My grandfather began to study English

there last year.

(長野県)

解答・解説

1. She is an English teacher.

彼女は です 一人の 英語 教師。

2. The water was so blue and very beautiful.

その 水は でした 非常に 青い そして とても 美しい。

3. I go to school with Ken.

私は 行く ~へ 学校 ~といっしょに 健。

4. My grandfather began to study English there

私の 祖父は 始めた 勉強することを 英語を そこで

last year.

この前の 年。

◎ 1と2は、be動詞を用いた文。11ページの③に、be動詞のあとには名詞 または 形容詞が必要だとあるが、

1は、主語 + be動詞 + 名詞

2は、主語 + be動詞 + 形容詞

◎ 2のsoにはいろいろな意味があるけど、この場合は「非常に」。

◎ 3のgo「行く」に、「~を」はいらないよね。

◎ 4のbegin「始める」は「~を」が必要。何を始めたかという、「勉強すること」を。

なお、to studyで不定詞(to+動詞の原形)。意味は、「~すること」、
「~するために」、
「~するための」の3通りがあるが、この場合「~すること」。

◎ 4のlast yearは、ふつう、2語セットで「去年」。けど、lastだけで「この前の」という意味だから、このようにバラした方が使い道が広がる。

Step 2 文の種類と語順

ここでは、文の種類（疑問文、否定文、命令文）によって、今回のテーマである「語順」がどうなるのか、みていくことにしよう。

1. 疑問文

ア. Are you a student ?

です あなたは 一人の 生徒 ?

イ. Did you have a good time last night ?

あなたは 持った 一つの よい 時を この前の 夜 ?

(長野県)

疑問文のつくり方は、次の2通り。

be 動詞、助動詞(**can** など)を用いた文 (例のア)

… これらを前に出す(主語と入れかえる)。

一般動詞を用いた文 (例のイ)

… **Do, Does, Did** + 動詞の原形。文の頭に、現在なら **Do, Does**、過去なら **Did** がきて、文中の動詞はもとの形(原形)にもどす。

be 動詞、助動詞は語順が変わるだけなので、スラスラ流に訳すうえで問題はないだろう。一方、一般動詞の場合はどうするか？ 文の頭の **Do, Does, Did** には意味がないことにする。(ただし、例のイのように過去の場合は原形だけでは過去の意味が表せないなので、**Did** と動詞の原形をセットで「～した」とする)。

ただし、役割はある。**be** 動詞(助動詞)の場合もそうだが、**Is this** ～？、

Do you ～？のように、Is や Do が、最初にくるべき主語よりも、さらに前にあるということが非常に重要なのだ。こうすることで、「これから質問するぞ」と聞く人に予告しているのだ。聞く側も、be 動詞や Do, Does, Did で始まる文の最初を聞いた瞬間、「自分は質問されてるな」って、すぐわかるようになってるんだ。

日本語でこれをやろうと思ったらどうなるか？

1つの方法として、いつも「質問」と書いた黄色い紙を持ち歩く。で、会話のとき、相手に何かたずねようと思ったら、その黄色い紙をパッと見せて、これから質問するぞと予告する。

マア、こんな場面を想定してもらえないだろう。サッカーのイエローカードのようなもんだ。

2. 否定文

ア. I was not busy two months ago.

私は ではなかった 忙しい 2 (か)月 前に

イ. They don't know what will happen. (長野県)

彼らは 知らない 何が ~するだろう 起こる。

否定文のつくり方は、

be 動詞、助動詞(can など)を用いた文 (例のア)

… これらのあとに not をつける

一般動詞を用いた文 (例のイ)

… do, does, did + not + 動詞の原形

意味は、be 動詞 と not で「～ではない」、do(es) not ～で「～しない」としてしまおう。大事なことは、not を含んだ**否定の表現が、文中ではかなり前のほうにあるということ。英語では、肯定・否定の意思表示を文の前のほうで行うのだ。**

これを最後にもっていく日本語では、何が起こるか？

たとえば、親せきのおじさんが遊びに来たとしよう。そして、君たちに「おこづかいをあげ・・・」って言ったら、「アッ、やったネ！」って思うでしょ。

ところが、「おこづかいをあげ」のあとが「ないよ」だったら、「何なんだ!？」ってムカツクでしょ。

けど、英語ではそうじゃない。

「私は あげないよ あなたに こづかいを」と並んでいるから、最初からくれる気がないって、すぐわかるよね。

3. 命令文

ア. Show me your pictures, please.

見せて(よ) 私に あなたの 写真たちを, どうぞ。

命令文には主語がなく、動詞の原形で始まる。なぜか。何かさせたい**対象は「相手」に決まっているので、主語を入れる必要がない**から。そして、いきなり動詞の原形で始めることで**インパクトを与えたい**からである。大事なのは、後のほう。こうすることで、**その動詞の意味が自分の要求としてはっきり伝わるんだ**。命令文の動詞は、「～して(よ)」と訳しておこう。

[練習 2] 次の英文をスラスラ流に訳してみよう。(解答・解説は次のページ)

1. Can I visit him next Saturday ? (長野県)

2. Does Mr. Saito still make tofu at his shop ?
豆腐を (長野県)

3. This book isn't mine.

4. He didn't like the old schoolhouse. (長野県)
校舎を

5. Please tell me about your work experience.
経験 (長野県)

解答・解説

1. Can I visit him next Saturday ?

することができる 私は 訪れる 彼を 次の 土曜日 ?

2. Does Mr. Saito still make tofu at his shop ?

斉藤氏は 今でも つくる 豆腐を ~で 彼の 店 ?

3. This book isn't mine.

この 本は ではない 私のもの。

4. He didn't like the old schoolhouse.

彼は 好まなかった その 古い 校舎を。

5. Please tell me about your work experience.

どうぞ 語って(よ) 私に ~について あなたの 仕事 経験。

- ◎ 1と2は疑問文。1は **Can** を、2は **Does** を聞いた瞬間、質問されてるんだなって相手に伝わる。
- ◎ 3と4は否定文。文の前のほうで「~ではない」ってわかる。
- ◎ 5のように、命令文の前後に **please** 「どうぞ」がくると、やわらかい表現になる。

A君にここまで説明した翌日、彼からメールがきた。「**スラスラ流も悪くないね(^_^)/**」って…。

お・わ・り・に

スラスラ流【入門編】は、ここまで。今回の目的は、一人でも多くの人に**スラスラ流のよさを伝えること**、そして、一人でも多くの人に、「よし、**自分もスラスラ流を試してみよう**」と共感してもらいたいことなんだ。

そう思ってくれた人は、とにかく、いろいろな英文を、スラスラ流で訳してみよう。題材はなんでもいい。教科書の本文でも、長文読解の問題でも。ただ、ここまでの知識では、スラスラ流で訳しにくい英文もある。(そのような文だけは、今までとおり、ふつうの日本語に直しておいてください。ゴメンナサイ)。それか、**自分なりのスラスラ流を考えてみるものおもしろいかも…。**

「はじめに」の長文問題をすっ飛ばした人も、スラスラ流でチャレンジしてみて。そういえば、「この長文問題、スラスラ訳も答えも何も載^ってないけど、どーなってんの？」と思った人。忘れたわけじゃないからね。次の【実戦編】で扱います。

最後に。本書の執筆^{しつひつ}に当たり、多くの人のお世話になりました。考える学習をすすめる会のメンバーはもちろん、私の塾の生徒や卒業生、友人から、アドバイス・批評^{ひひょう}・お手伝いをいただきました。本書は、これらの人々の力がなかったら、世に出ることはなかったでしょう。

ご協力いただいた方々、ならびに、最後までつきあってくださった読者の皆様に、心から御礼申し上げます。どうもありがとう!!